

初時雨

長唄 全詞章

杵屋六左衛門作曲（底本の記載による・代数不詳）

作詞者・初演年不詳

〔本調子〕 檜松の葉の落そめて、夕暮白き待乳山、時雨しぐれに、啼く鳴の声も凍るや干潟道、
衣紋坂越ゑて、鐘の音

〔二上り〕 夫は上野か浅草か、埒急ぎて通ひ来る、阿呆鳥が笑はふとままよ、エ、おかしやんせ
可愛可愛と引き、羽を締めて、互に肌を暖め鳥、番に誓鳥さへも、鴛鴦の衾に思ひ寝の草
室の初花、下紐解けて、夫から結ぶ、つい開き初、莊子が蝶の夢見草、露の情をいたづらな、
誰か怪気に吹き払ふ、憎や櫺子に誘ふ夜嵐に萎るる双翼